

妙安寺だより

 NO **194** 号


秋季彼岸会

9月20日(土) ①11:00～

21日(日) ①11:00～ ②14:00～

23日(火) ①14:00～

【彼岸の中日】

どなたでも参拝できます



お彼岸は、23日の中日を挟んで、前後3日間の計7日間続く仏法聴聞期間です。彼岸の中日は、太陽が真西に沈みます。陽の沈む西の彼方に仏様の世界はあると言われ、先人は彼岸期間に自らのいのちの帰る場所に思いを寄せてきました。そして、同時に、手を合わすなかから自らの人生のこれ

までの道のりで出会った様々な人や言葉を思い返しつつ、「私」という存在を捉え直す時間としてきたのです。自分を見つめ直す、そのような時と場を大切にしたいものです。



報 恩 講 案 内

1 1 月 1 5 日(土)

どなたでも参拝できます

報恩講とは、浄土真宗を顕かにされた親鸞聖人のご法事です。

聖人は、「南無阿弥陀仏」の念仏を伝え、1262年11月28日に90年の生涯を終えられました。私達が亡き方に手を合わせてお参りするご縁の原点が親鸞聖人なのです。その聖人を訪い、聖人が示された手を合わせる願いを確かめる大切なお参りが報恩講なのです。是非、お参りください。

本年も残念ながらお斎は無しとさせていただきます。

※郵便振込票（00360-7-9124 妙安寺）は当日参詣出来ない方の為です。

【法要日程】 1 5 日 1 3 : 0 0 ~ 受付開始

1 3 : 3 0 ~ ご 法 話

1 4 : 3 0 ~ 報 恩 講

おみがきは11月8日(土)13:00~
大房地区の皆様、よろしくお願い致します。
有志の方もお待ちしています

【 御 絵 伝 】

親鸞聖人のご生涯で代表的な出来事が描かれている掛軸。妙安寺の御絵伝は江戸期に描かれたものです。報恩講では、本堂正面に向かって左側の余間にお掛けします。近くで見えて頂くこともできますので、是非、見に来てください。



連載「仏教のおしえ = 十二光（じゅうにこう）=」



今月は『正信偈』にある「^{むげむたい}無碍無対^{こうえんのう}光炎王」の仏様の光の具体的なはたらきを表す十二光のうち、5つ目の「^{こうえんのう}光炎王」です。「光と炎の王＝太陽を超える光と炎」ということです。

私達の生活や地球環境に欠かせない太陽の熱と光ですが、それをを超える光と炎というのは、どういうことでしょうか？

親鸞聖人は、和讃のなかで

^{ぶっこうしょうようさいだいいち}仏光照曜最第一 ^{こうえんのうぶつ}光炎王仏となづけたり ^{さんず}三途の黒闇 ^{こくあん}ひらくなり【浄土和讃】

意訳 阿弥陀様の光明は他が及ぶことがなく、光や炎のなかの王：光炎王と名付けられている。

その光明は、地獄・餓鬼・畜生の三悪道（三途）の暗闇に落ちる者をも照らし救うのである。

と詠んでおります。地獄とは互いに殺し合う世界（戦争）であり、餓鬼とは満たされない欲望の世界、そして畜生とは相手^{かたわ}を 傍らにしていく差別の世界のことを言い表します。これらの世界は、死後にあるのではなく、現実ただ今のこの世界にある私達の煩惱（怒りや欲・貪り）によって作り出される世界です。「三途の黒闇ひらくなり」とあるように、この三つの世界におもむく原因となる煩惱を焼き尽くし、真っ暗な世界に光を与え、命の尊厳を生きる道を開いていく。それが、阿弥陀様の光と熱で表現される救いなのです。

太陽が私達の現実生活に欠かせない光と熱であるように、阿弥陀様の光と熱は私達の精神生活になくてはならないものなのです。煩惱から「私」を解放して、闇の中から生きる道を開いてくださる、そのはたらきに対して最大限讃嘆した表現が「光炎王」であるのです。

【令和7年度永代経報告】

本年もおかげさまで無事にお勤めできました。このたびの法要も、ご参拝いただきました皆様、そして当日お手伝いいただいた総代会・世話人の方々、皆様それぞれのご理解とご協力をいただき、お勤めできたと思っております。ありがとうございました。



白色の認識

白という色を
知ったのは

実は
白じゃない
いろいろな色と
比べて

白だと
知ったんだ

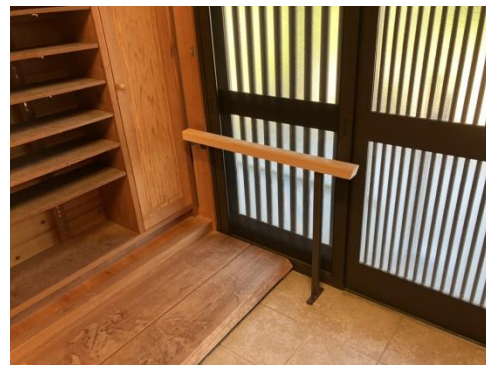
世の中
白しかなかったら
白というコトが
生まれなかった
かもしれない

【会館玄関に手すり設置】

会館の玄関の左右に手すりを設置しました。

対応がすごく遅くなり、すいません。

お参りしやすいお寺を目指していますので、
ご意見・ご要をお聞かせください。



【篤志寄付ご報告】

7月13日 お仏供米30kg

小山 逆井 周三様

7月 御文表装修復

世田谷 山田 晴彦様
和子様

令和7年9月4日

真宗大谷派(京都・東本願寺)

妙

安

寺



0297 (34) 3116

ホームページ <http://www.myouanji.net>

門信徒及びご縁のある方々 各位